

登録番号 第 23752 号

MIC ベネビア®OD

- 幅広い殺虫スペクトラム
 特長： ●速やかな摂食活動阻害による作物保護
 ●長期残効性、優れた浸透性と移行性及び耐雨性

ベネビアはFMC Corporation またはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

有効成分	シアントラニプロール・・・10.3%	包装	500ml×20 250ml×20×2
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

2020年04月8日現在の内容です。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハマダラメガ ウバ類 オタバコガ	2000～4000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は3 回以内)
	アザミウマ類 アブラムシ類	2000倍					
はくさい	コガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハマダラメガ	2000～4000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は3 回以内)
	アブラムシ類 キジノミハムシ	2000倍					
だいこん	コガ アオムシ ハマダラメガ カブラハバチ ダイコンサハムシ	2000～4000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (は種時の土壌混和は1 回以内、散布は3回以内)
	アブラムシ類 ハモグリバエ類 キジノミハムシ	2000倍					
	ヨトウムシ	4000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	コガ アオムシ ハスモンヨトウ	2000～4000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は3 回以内)
	アザミヤカ類 アブラムシ類	2000倍					
トマト	オタマコガ	2000～4000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は3 回以内)
	ハモグリバエ類 コジラミ類 アザミヤカ類 アブラムシ類	2000倍					
ミニトマト	オタマコガ	2000～4000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は3 回以内)
	ハモグリバエ類 コジラミ類 アザミヤカ類 アブラムシ類	2000倍					
きゅうり	アブラムシ類 コジラミ類 アザミヤカ類 ハモグリバエ類 ウリメカイ	2000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は3 回以内)
レタス	オタマコガ ハスモンヨトウ ヨウムシ	2000～4000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は3 回以内)
	ハモグリバエ類 アブラムシ類	2000倍					
非結球レタス	オタマコガ ハスモンヨトウ ヨウムシ	2000～4000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は3 回以内)
	ハモグリバエ類 アブラムシ類	2000倍					
ピーマン	オタマコガ	2000～4000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は3 回以内)
	アザミヤカ類 アブラムシ類 コジラミ類	2000倍					
ししとう	オタマコガ	2000～4000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、散布は 3回以内)
	アザミヤカ類 アブラムシ類 コジラミ類	2000倍					
いちご	アザミヤカ類 アブラムシ類 コジラミ類	2000倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、散布は 3回以内)
	ハスモンヨトウ	2000～4000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
アスパラガス	ハスモンヨトウ	4000倍	100～300 ㍓/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アザミヤマ類	2000倍					
オクラ	アブラムシ類	2000倍	100～300 ㍓/10a	収穫開始 3日前まで	3回以内	散布	3回以内
えだまめ	ハスモンヨトウ マメシクガ	2000～4000倍	100～300 ㍓/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	アブラムシ類	2000倍					
だいず	ハスモンヨトウ マメシクガ	2000～4000倍	100～300 ㍓/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	アブラムシ類	2000倍					
さやいんげん	ハスモンヨトウ	4000倍	100～300 ㍓/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	ハメグリバエ類	2000倍					
かぼちゃ	ハスモンヨトウ	4000倍	100～300 ㍓/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	ハメグリバエ類	2000倍					
ねぎ	シロイモジヨトウ アザミヤマ類 ハメグリバエ類	2000倍	100～300 ㍓/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の処理は3 回以内(但し、株元灌水は 1回以内))
たまねぎ	シロイモジヨトウ ハスモンヨトウ アザミヤマ類 ハメグリバエ類	2000倍	100～300 ㍓/10a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内
やまのいも	カゲイコガ ハスモンヨトウ アブラムシ類	4000倍	100～300 ㍓/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
かんしょ	ハスモンヨトウ カゲイコガ アリモドキゾウムシ ヨツモンカメノコハムシ	4000倍	100～300 ㍓/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
ばれいしよ	ハスモンヨトウ	4000倍	100～300 ㍓/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	3回以内
	アブラムシ類	2000倍					
にんじん	アブラムシ類	2000倍	100～300 ㍓/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	ヨウムシ ハスモンヨトウ キアゲハ	4000倍					
未成熟とうもろこし	ムギクビレアブラムシ	2000倍	100～300 ㍓/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
	アリメイト 材材バコガ	4000倍					
たばこ	ヨウムシ	4000倍	100～180 ㍓/10a	収穫10日 前まで	2回以内	散布	2回以内

については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意事項

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (3) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- (4) アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけること。
- (5) やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
- (6) アスパラガスに使用する場合、銅剤との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないこと。
- (7) きゅうりに使用する場合、TPNを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしないこと。
- (8) トマト及びミニトマトに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、以下のことに注意すること。
 - 1) アゾキシストロピンを含む農薬との混用はしないこと。
 - 2) アゾキシストロピンを含む農薬を散布した場合には、散布後2週間以上間隔をあけて本剤を使用すること。
- (9) はくさいに使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、加用に当っては事前にその適否を確認すること。
- (10) 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- (11) 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- (12) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (13) ミツバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱にかからないようにすること。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるか、巣門を閉じること。
- (14) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
- (15) 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
- (16) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。